

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.642

★「野間読書推進賞」受賞候補者推薦のお願い(2頁)
★「上野の森 親子ブックフェスタ」配信で開催(3頁)

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる



読みたい、書きたい思いが あふれてます！

大学生と読書

株式会社読書人
「週刊読書人」編集部

すなみのりこ
角南範子

学生書評の連載「書評キャンパス」は、2017年から「週刊読書人」本紙でスタートしました。きっかけは「大学生は本を読まない」と、定型句のように話題にされていたことです。書評紙「週刊読書人」としては、その状況にただ憂いてはいられない。大学生が読んで夢中になった一冊を、友人にシェアする書評コーナーを、「読書運動」としては始めることになりました。

各大学図書館や先生方にご協力いただき募集をはじめると、手を挙げる学生がたくさん現れたのは、うれしい「見込み違い」でした。書評には編集部が添削アドバイスを加えて返送し、推敲された最終稿を年間50本、毎週欠かさず掲載しています。書評を書く

のはじめての学生が、アドバイスを参考に間違えるようにいい書評に仕上げているのには、幾度も驚かされています。学生たちのみずみずしい感性が、読書とはなにか、書評とはなんのためにあるかなど、新たに考え直すヒントをくれている気がします。

選書は学生に一任しており、新書や研究書、エッセイ、実用書などさまざまな本が取りあげられますが、多いのは小説で半数以上を占めます。なかでも繰り返し選書されるのが、辻村深月、住野よる、東野圭吾、伊坂幸太郎、原田マハといった作家たち。三島由紀夫も没後50年をこえて変わらず人気があります。意外に思えるのは、詩歌句ジャンルの本ですが、文字数制限の

第51回(2021年度)

「野間読書推進賞」

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年に講談社創業80周年を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

本年度もつぎに掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願ひいたします。



野間読書推進賞賞牌

体を再度ご推薦くださってもかまいません。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
 - ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
 - ③ 全国市町村教育委員会連合会
 - ④ 日本PTA全国協議会
 - ⑤ 日本新聞協会
 - ⑥ 日本放送協会
 - ⑦ 日本民間放送連盟
- などに候補者推薦を5月中に依頼します。

受賞候補者の心当たりがある方は、これらの団体を通してご推薦ください。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ (<http://www.dokusyo.or.jp>) でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用のときは、当協議会に「請求ください」。

6 推薦書類送付先、締切

公益社団法人 読書推進運動協議会
「野間読書推進賞」係
〒101-0051

東京都千代田区神田神保町
1-32 出版クラブビル6階
Tel. 03-5244-5270

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進賞運営事業委員会からなる選考準備委員会で候補者を絞り、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

8 選考委員(五十音順)

- 秋本 敏 公益社団法人 日本図書館協会 図書紹介事業委員会 委員長
- 黒木 義博 公益社団法人 全国学校図書館協議会 総務部 部長代理 読書活動プロジェクト担当
- 野上 彰 児童文学・文化評論家 一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

10 贈呈式

2021年11月5日(金)
出版クラブホールにて(予定)
出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどをお招きします。昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

*新型コロナウィルス感染症対策として会合開催の自粛が求められる場合、選考会・贈呈式のスケジュールなどに変更がでることもあります。読書推進運動協議会事務局、野間読書推進賞運営事業委員会・選考委員会では、推薦者・受賞候補者へ最大限の敬意を払い、状況に応じて最善の策がとれるよう務めてまいります。ご理解のほど、お願い申し上げます。

2021年
5月3日～5日

上野の森 親子ブックフェスタ

神保町から配信

5月3日～5日の「上野の森親子ブックフェスタ(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/出版文化産業振興財団(JPIC)」は、直前に発令された緊急事態宣言のため、講演会会場の東京都美術館 講堂が使用不可となり、急遽、会場を神田神保町の出版クラブホールに移動。予定していた3日間6本の講演会を無観客で行い、オンラインでライブ配信する形で開催されました。

3日のオープニングは大友剛さんの「マジックと音楽と絵本の世界」。「会場ではできないマジックを」と、手元をじっくり見せながらマジックを披露。続いて、ピアニカとテーパーピアノの演奏や、ベートーベンの『運命』にあわせた手遊びを視聴者と一緒に楽しみ、『ねこのじいちゃん』など自身が翻訳した参加型絵本を読み聞かせ。午後は、いとうみくさん、工藤純子さんの「対談 児童文学よもやま話」。長年交流のあるおふたりが、作家デビューするまでの紆余曲折、子ども時代の創作の思い出や読んできた本、おたがいの作品を紹介しながら、「コロナで社会・価値観が大きく変わったいま、書く側としてコロナを意識しないといけない」「子どもの代弁



カメラは3台、モニターで映り具合も確認(あんびるやすこさん講演会より)

者であることが、児童文学の大きな役割」などとテンポよく語りありました。

4日の午前中は、たかまつななさんの「お笑い芸人たかまつななと笑って学ぶSDGs」。SDGsとはなにか、世界の事例について、クイズも交えて紹介。午後の「発表!」【第2回 親子で読んでほしい絵本大賞】〜聞かせ屋。けいたろうと素敵な仲間たち〜では、けいたろうさんを進行役に、JPIC読書アドバイザたちが、絵本の読み聞かせやブックトークを展開。後半は石川えりこさん、中川ひろたかさんも登場し、親子で読んでほしい絵本大賞を受賞した「おれ、よびだしになる」について語りました。

5日は深谷圭助さんの「辞書

引き学習」体験授業!〜ことばのちから、ぐんぐんのびる!〜。辞書をわからないことばを調べるツールとしてだけではなく、「読み応えのある書物」として読みこむことで、「言い換える」力が身につくと、実例をあげて解説しました。ラストは、あんびるやすこさんの講演会「とっておきのおはなし」。編集者との対談形式で、創作の裏側や人気シリーズの特徴を紹介。物語の設計図プロジェクト、なんでも魔女商會では「人の心を動かすものは、努力や経験から生まれる思いを基準に、魔法でできることのルールを決めている」、「ルルとララ」では「作った子どもたちががっかりしないよう、失敗しないレシピを考え抜く」などの楽しいエピソードを明かし、「読書の喜びを生活の一部にすることは、100人の友だちをつくるのと同じくらい大切なこと。読書習慣はずっとあなたを助けてくれる。友だちです」と子どもたちへのメッセージを送りました。

すべての講演会でチャット機能を利用し、視聴者へクイズを出題したり、質問や演奏してほしい曲目を募るなど、オンラインならではの楽しみも好評でした。

2021年度 「絵本ワールド」 開催情報

子どもの読書推進会議が後援する「絵本ワールド」。新型コロナウイルス感染症の見通しがつかず、各地計画に苦慮していますが、「絵本ワールドinふくしま2021(主催)絵本ワールドinふくしま実行委員会」が8月14日・15日開催を準備を進めているとのことです。会場は例年同様ビッグパレットふくしま(郡山市)が予定されています。

東日本大震災の年も開催された「絵本ワールドinふくしま」ですが、コロナ禍のなか、昨年は中止を余儀なくされました。今年の開催を心よりお祈りいたします。



「絵本ワールドinふくしま2019」会場にて

2021年度公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会では、左記のとおり2021年度の定時総会を開催いたします。

- 一、日時 2021年6月18日(金) 午後3時~4時30分
- 二、場所 出版クラブビル会議室 (東京都千代田区 神田神保町1-32)

- 一、議事
 - ・第1号議案 2020年度事業報告書と決算報告書承認の件
 - ・第2号議案 役員改選承認の件
 - ・第3号議案 2021年度事業計画書と収支予算書報告の件
- *5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。

はがきのご返信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願い申し上げます。

*新型コロナウイルス感染症対策として、会合開催の自粛が求められる場合、読書推進運動協議会理事会の協議・決定をもって開催スケジュールなどを変更する場合があります。その場合はすみやかに、会員各社へお知らせいたします。

1000冊以上の新刊絵本から 厳選した50冊を紹介

全国学校図書協議会(全国SLA)は、推薦絵本リスト「2021 えほん50-全国SLA絵本委員会選定(協力)子ども読書推進会議」を発表した。このリストは、2019年から毎年選定、発表されている。今回は2020年1月から2020年12月までに刊行された絵本より、全国SLA絵本委員会が「ぜひ子どもたちに読んでほしい」と推薦

する50冊が厳選されている。リストはPDFとエクセル形式のファイルが用意されており、全国SLAのホームページからダウンロードが可能。絵本ごとに目安となる対象程度も記載されている。また、推薦絵本の書影と内容紹介が入ったリーフレットのPDFもダウンロードできる。

●全国SLAホームページ内
「えほん50」紹介ページ
<http://www.j-sla.or.jp/recommend/chon50.html>



書影・内容入りのリーフレットPDFはダウンロード可能

NPOブックスタート

9言語に対応した絵本紹介で 外国人親子を応援!

NPOブックスタートは「絵本×多言語サポートプロジェクト」を開始した。第1弾として東京外国語大学と協働し、多言語資料を作成。コロナ禍で帰国できず、入

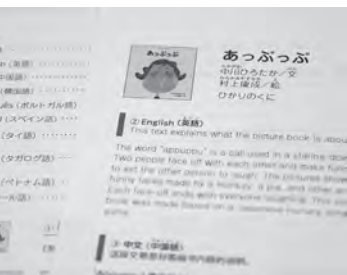
本」の30タイトルについて、「多言語対応絵本紹介シート」を作成。同NPOのブックスタート実施自治体向けサイトで公開している。

手できる情報も限られ、日本社会から取り残されがちな外国人親子に絵本のひとときを届けている。NPOブックスタートでは

紹介シートには、日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・タイ語・タガログ語・ベトナム語・ネパール語が

2004年から多言語資料を自治体に提供してきた。今回、東京外国語大学の言語文化サポーターなど専門家と協働して、自治体のブックスタートで手渡される絵本候補「ブックスタート赤ちゃん絵

体」を用いた「やさしい日本語」で説明。また、母語での読み聞かせだけでなく、日本語で読みたい保護者に向けて、各言語の発音にあわせたアルファベット表記を採用しており、外国人親子が日本語に親しむ下地づくりにもつながる。

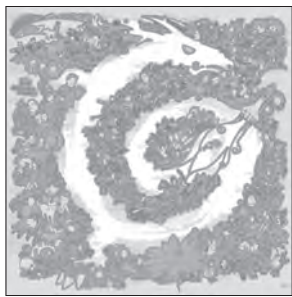


絵本・日本語に親しむきっかけとなる「多言語対応 絵本紹介シート」

NPOブックスタートでは、この紹介シートを外国人親子が絵本を楽しむサポートとしてだけでなく、地域が親子をサポートしていることを伝えるツールとしても活用してほしいと期待している。

●NPOブックスタート
<https://www.bookstart.or.jp/>

第60回全出版人大会 開催

若い世代に向けた魅力あるコンテンツを出版し、
「読書習慣」を「ニューノーマル」に！

今年の大会記念風呂敷

5月7日(金)、東京都千代田区の出版クラブホールで「第60回全出版人大会(主催)日本出版クラブ」が開催された。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、記念講演会は中止、出席者数も20名ほどと大幅に少ぼつての開催となったが、村上和夫大会委員長が大会声明を朗読、感染症拡大による困難が続いているが、出版物へのニーズが高まる側面が見え、若い世代が本の魅力を再発見するなど可能性を示し、出版活動を通じて豊かな未来の創造に尽力することを誓った。また、29名の長寿者祝賀と294名の永年勤続者表彰も行われた。

全出版人大会では毎回、記念風呂敷を作っている。今年のタイトルは「歴史を紡ぐ龍」で廣鉄夫さんがデザイン・イラストを担当。心に残る懐かしい本や作家たちが龍の鱗にちりばめられている。

大会 声明

今、世界は新型コロナウイルス感染症拡大により、困難な状況が続いています。復興五輪と位置付け、昨年の開催が予定されていた東京オリンピック・パラリンピックが延期となり、今年は開催方式を変えることを余儀なくされています。我が国においても緊急事態宣言の発令などがあり、感染抑制のために対面のコミュニケーションが制限されています。

私たち出版界においては、昨春の緊急事態宣言による一部書店の休業、一斉休校、そして職場では在宅勤務の要請などがあり、当初、出版販売は厳しい状況で推移しました。しかし、一斉休校や在宅勤務による通学・通勤時間の減少などにより生まれた時間で、出版物のニーズが高まる側面が見られました。社会現象とも言われるコミック「鬼滅の刃」のヒットが先陣を切り、全体の出版販売金額を牽引する結果となりました。

出版物に改めて向き合う時間が増えたこと、そして、これまでの読書推進運動の成果もあり、子供たち、学生、そしてあらゆる世代に本を読む「読書習慣」が戻ってきています。SNSネイティブと言われる若い世代が本の魅力を再発見し、その感動を発信・拡散しています。私たちが魅力ある良質なコンテンツを出版し続けることで、この状態がニューノーマルとなることを期待します。また、このことは我々出版界が、一定のニーズを持つ潜在読者を新たな視点の出版物で掘り起こしていく大きな可能性を秘めていると言えるでしょう。

読者、書店、図書館、取次販売会社が多く、出版物の近刊情報などについて、より早く正確に入手できるようにすることは、出版社としての重要な責務です。2015年から稼働しているJPRO(出版情報登録センター)のデータベースには、日々、出版社から数百点の出版情報が届き、今や近刊・既刊、紙・電子併せて260万点以上が蓄積されています。

基本書誌情報は、検索サイト「Books」で一般向けに提供され、さらに詳細書誌・販促・選書情報等をプラスして書店・図書館向けサイト「BooksPRO」に反映されます。取次販売会社向けの搬入情報は目下の大きな課題である出版流通改革・改善にも活用されています。また、出版活動の基本となる「出版権設定」情報の登録は、大変重要な機能です。私たちは、最新の出版情報を登録し、業界再活性化に向けて活用していきます。図書館における利用についての著作権法改正は、その運用に関してしっかりと取り組む必要があります。著作物の一部分の個人への送信に関して導入が予定される「補償金制度」が実効性を持った運用となること、さらに絶版等図書の情報についての国会図書館の運用も、出版社のアクティブな出版活動と著作者の創作・執筆活動を妨げるものであつてはなりません。その対象範囲は、厳格に絞り込んでいくことを求めています。

また、すでに運用が始まっている、授業目的公衆送信補償金の問題についても、それを超える範囲に対応するライセンス整備を始め、適切な運用となるよう積極的に取り組んでいきます。

今、私たち出版人は、グローバル化が進む次の時代へ向けて、国際社会に活躍する「人」を育て、「文化」を育てていく使命と責任があります。出版活動を通じて、豊かな未来の創造、学術、文芸、教育の振興・普及、そして世界の平和、文化の進展に力を尽くすことを誓います。

最後に新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と日常が戻ることを願ひ、大会声明といたします。

令和三年五月七日

優良読書グループの歩み (5)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

おはなしのとびら

代表者 千葉貴美子

千葉県香取郡神崎町

〈推薦〉
千葉県読書推進運動協議会

おはなしのとびらは、2001年に新しく図書室が設置されたことをきっかけに、妊婦さんから、0歳児を含めた就学前までの親子を対象に、本の読み聞かせを中心とした会を立ちあげました。

そのころ私は町立保育所に勤務しており、保育所を退職された3名の保育士(ボランティア)と私の4名ではじめました。現在は社会教育事業の一環として行っています。月に一度開催し、前日はペーパーサート、パネルシアター、大型絵本作りなどの準備をしています。子どもたちの年齢は当初、2歳〜4歳の子が多かったのですが現在は、低年齢化し5か月から2歳児がほとんどで、お母さんたち

も神崎町に移り住んで、間もない方が多くみられます。

ある日、ひとりのお母さんから「私、虐待してしまってます」と相談がありました。子育てはひとりでするものではなく、子育ての仲間が必要であることを伝えました。本に親しみ、親子で楽しさを共有するとともに、お母さんの子育て、仲間づくりにも重きを置いて運営しています。会が終わると、お母さんたちが携帯電話の番号を交換している様子が見られます。

また年に2回、教育委員会とまちづくり課の協力を得て、神崎発酵の里ぶくぶく講座に参加し味噌づくり、味噌玉づくり、梅干づくりなどを行っています。親子で一緒に作って食べたり、ほかのお母さんたちの交流の機会にもなり、子育ての仲間の関係も深まってきました。

「おはなしのとびら」の周知は町の広報誌とブックスタートで行っています。2か月に一度のブックスタートで赤ちゃんに絵本を読み

ますと、じつと見ている様子に、お母さんたちが「赤ちゃんでも本を見るんだ」と喜んでくれます。つぎの会には、新しく赤ちゃんをつれたお母さんたちが参加してきます。広報誌だけでは広がりが少ないのですが、ブックスタートで読み聞かせをすることで効果を得ることができました。

先日、会に参加した方にお会いしたとき「おかげさまで、私も子どもたちも本が大好きになりました。おはなしのとびらに参加したお母さんたちは、いまでも集まっています」と笑顔で報告してくれました。会の効果が実感できうれしく思います。



「おはなしのとびら」は地域親子のサポーター！

私たちメンバーは80代、70代、60代と高齢になり、若返りの時期にきています。今後に向けて新しいメンバーを募集して「おはなしのとびら」の火を消さないようにすることが、私たちの切実な願いです。

おはなしひろば「なかよし」

代表者 西山 佳子

香川県高松市

〈推薦〉
香川県図書館協会
読書推進運動部会

おはなしひろば「なかよし」は、1997年、牟礼町が放課後、鍵っ子になる小学3年生までの児童を預かる児童保育を発足させるに際し、絵本を読むボランティアとして参加したのがはじまりです。最初は児童保育も手探り、私たちが自由な時間に参加して、子どもたちの「これ読んで」という本や、自分たちの好きな本を館長と相談しながら、月2回のおはなし会を基本に、「一年生を迎える会」や「クリスマスおはなし会」などをまじえて、児童たちと楽しんでいました。

館からの「おはなし会」の要望をきっかけに、2007年に「おはなしひろば「なかよし」と命名し、グループとして活動を拡げてくださいました。

現在は、牟礼図書館、子育てキッズセンター、地域の軽度障がい者施設でのおはなし会を定期的に月1回開き、夏休みや冬休みには、児童保育や保育所に出向き、絵本、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアターなど、対象の子どもたちにあわせて行っています。谷川俊太郎やねじめ正一の楽しい詩を、一緒に大声で童読するのも人気があります。

小さなグループですが、発足当時から続いている仲間も多く、絆は深く、グループ名とおりの大のなかよしです。

例会は月1回、つぎのおはなし会のプログラム作り、本を読みあつての批評、滑舌の訓練には歌舞伎十八番「外郎売」を全員で音読。ときには、元女優を講師に迎えての勉強会を開き、県立・市立図書館主催の研修会には積極的に参加し、絵本の選び方、読み方を学んでいます。

また、それぞれが、NHKの講座やほかの朗読会で習得した知識や経験を持ちよって「心を育む読

み聞かせ」を目指しています。

先日、見知らぬ若い女性がここにこして近づいてきました。「私、児童館で本を読んでもらった〇〇です」。名前を聞いた瞬間、いつもいちばん前で、目を輝かせて聴いてくれていた小学生の〇〇ちゃん、はつきりと思いきや、

「いま、大学生で先生を目指しています。放課後、本を読んでもらってうれしかった。生徒に希望を与えられる先生になりたいんです」と。地域での小さな活動への大きな褒美でした。

絵本の読み聞かせとの出会いが私たちを成長させ、その後の人生を楽しく豊かなものにしてくれたことに、感謝の気持ちでいっぱい



例会・研修会を重ねて豊かなおはなし会を

です。

これからも、大好きな絵本や昔話の世界を、声とぬくもりをとおして届けていけたらと願っています。

与那原町しまくとぅばボランティアの会

「劇団よなばるおばあQ」

代表者 屋比久澄子

沖縄県島尻郡与那原町

（推薦）
沖縄県読書推進運動協議会

「劇団よなばるおばあQ」は、2007年1月に結成したグループです。これまで地域の公民館・保育所・幼稚園・小学校・児童施設・高等支援学校など、公共施設から老人ホームまで、さまざまな場所で開催し、幅広い世代に向けて絵本・紙芝居の読み聞かせを行ってきました。

会員は10名。全員、沖縄県の与那原町在住で平均年齢は76歳です。毎月ひとりあたり500円を会費として出しあつて運営しています。会費以外にも、2015年に「公益財団法人 伊藤忠記念財団『子ども文庫助成事業』」、2019年に「与那原まちづくり推進協議会」からの補助金などを受領し、これらを活用して絵本や

紙芝居を自主制作し、読み聞かせをしています。

これまで自主制作した作品には、地元伝説を題材にした紙芝居『運玉義留と金の枕』や、地元の伝統的な祭りである与那原大綱曳を題材にした紙芝居『つなひぎ』、地元の特産であるひじきを題材にした創作民話を絵本化した『よなばるひじき娘』があります。これら自主制作作品の読み聞かせを行ったあとに、劇の実演をします。演目を決めるときは、その時期にあわせるようにしています。

グループを育てるため、読み聞かせがマンネリ化しないよう心がけています。また、同じ演目でも、標準語としまくとぅば（沖縄方言）の二通り用意しています。会員同士で意見を出しあいながら役を決めて、稽古に励みます。平均年齢が高いこともあり、体調不良の会員が出ることもあります。そんなときには、ほかの会員が代役を進んでかかって出たりと、おたがいを支えあつているので、活動が生きがいとなっています。

読み聞かせには、地元のわらべ歌も取り入れていきます。その歌をCDにして、会員各自が練習できるように工夫しています。また演劇も同様に、セリフをCDに録音

地元の伝説とことばを子どもたちへ語りつく



しています。実演のときにはDVDに録画し、終わったあとは見直して検討を重ねています。

私たちは今後、地元に残っている民話を絵本化したいと考えています。標準語としまくとぅばの二通りの表記にした絵本を読み聞かせに活用するのが目標です。すでに地元である与那原町の民話を4つ、それぞれ小冊子化しています。これを1冊の絵本にまとめて、地域の子どもたちに親しんでもらえるようにしたいです。

地元根差した絵本が少ないと感じているので、助成金などを活用しながら今後も絵本を制作し、地域の子どもたちへ還元したいと考えています。



4月23日「子ども読書の日」

ライブ動画配信などを活用し、フォーラム開催

4月23日(金)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにて「子どもの読書活動推進フォーラム(主催：文部科学省/国立青少年教育振興機構)」が開催された。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、来場者は東京都内在住・在勤者のみに制限、YouTubeでのライブ配信を行った。本年度、文部科学大臣表彰を受けたの

は、「子供の読書活動優秀実践校」132校、「子供の読書活動優秀実践図書館」43館、「子供の読書活動優秀実践団体・個人」52件で、そのうち東京都の表彰対象者が会場で賞状を授与された。

動画上映による特別講演は、川島隆太さん(東北大学加齢医学研究所所長)の「読書が子どもの脳を育てる」。川島さんは、子どもの脳の発達について、自身の研究

室で得た科学的なデータを提示。会話によって育つこと、読み聞かせが心の脳を育むこと、読書は想像力を司る部分の脳に作用すること、スマホやタブレットを使う時間

が長いと脳の発達が遅れてしまいう時間にかけて勉強しても身につかない、電子書籍は専用端末でないと集中して読めないなど紹介した。

表彰者を代表し、新潟市立白山小学校(新潟県)、藤枝市立図書館(静岡県)、一般財団法人大阪国際児童文学振興財団(大阪府)が動画で事例発表を行った。

事務局報告(4月)

- ☆6日 機関紙「読書推進運動」第64号 別冊入稿
- ☆6日 大震災出版対策本部 運営委員会 入稿
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」第64号 別冊入稿
- ☆7日 岡部公認会計士・税理士・行政書士事務所にて「2020年度収支決算書」の作成を依頼
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」第64号 入稿
- ☆9日 全国学校図書館協議会「第26回日本総会」の最終選考会に出席
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」第64号 責了
- ☆13日 「2020年度 収支決算書」の監査を、春井宏監事・佐藤潤一監事・竹村和子監事に順次依頼
- ☆13日 「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会に出席(ビデオ会議)
- ☆13日 「上野の森 親子ブックフェスタ」について、日本図書普及株式会社に協力依頼
- ☆20日 「2021年度 第1回 常務理事会」開催
- ☆22日 「2021年度 第1回 理事会」開催案内を送付
- ☆23日 「5月12日」第63回「子どもの読書活動」推進フォーラム 入稿
- ☆26日 「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会に出席(ビデオ会議)
- ☆28日 緊急事態宣言を受けて「上野の森 親子ブックフェスタ オンライン」中継会場を出版クラブホールに変更のため、会場下見

最優秀賞は印刷製本！ 応募作はすべて展示予定

■矢祭町 手づくり絵本コンクール

福島県矢祭町は、第13回となる「矢祭もつたない図書館手づくり絵本コンクール」を開催。「自然・友情・心の大切さと、夢と希望がいつばいつまった手づくり絵本」をテーマに、全国から絵本作品を募集する。

募集部門は①一般の部(高校生以上)、②家族の部(中学生以下)の子どもが家族と一緒に制作したもの。それぞれに最優秀賞、優

秀賞などの賞と副賞(賞金)が贈られ、最終審査は、矢祭町長、柳田邦男さん、あべ弘士さんが務める。最優秀賞は印刷製本され、副賞として作者へ贈呈される。また、入賞作品をすべて電子書籍として3年間公開し、全応募作品を矢祭もつたない図書館で展示する予定。

応募資格はアマチュアであること。個人応募のほか、グループに

よる共同作品も応募できる。

募集期間は6月1日から9月30日までで、当日消印有効。作品の大きさやページ数などの応募規定、応募方法、および、応募時に必要な応募票のダウンロードなど、詳細な情報は、矢祭もつたない図書館ホームページで確認できる。

●矢祭もつたない図書館

TEL 0247-46-4646
http://www.mottainai-toshokan.com
e-mail=mottainai@educet01.plala.or.jp

編集部&事務局のひとこと

●昨年よりSNS上で交わされている「プロ野球申し送り事項」をご存じですか? 2020年シーズンを前半、コロナ禍でチームの移動を減らすため、パ・リーグが同一対戦カード6連戦という日程を組んだことがきっかけだったかと思えます。プロ野球各チームの先発を務めるピッチャーは6人ぐらいたるので、同一カード6連戦だと、おたがいで全戦力でぶつかりあうことになるのです。

●そこで、A対Bの6連戦後に、Aのファンが、つぎにBとあたるCのファンへBの状態を「申し送り」するというやりとりが登場。自分の最良チームについてではなく、対戦した相手について第三者に向けて報告するというのが、ミンです。最良チームの勝因敗因につながった相手チーム選手のプレーや状態について、○選手(冷凍)もまったく打てなかつた状態)していただきました。「すみません、×選手を解凍(打撃絶好調の状態)してしまいました。気を付けて」などと報告します。

●勝手に過激な投稿や返信がニュースになりがちなSNSですが、「申し送り」では「品のない、汚いことばは控えましょう」となっているときどき勘違いした投稿もあります。最良や勝ち負けを越えて、おもしろい試合やプレーが見たいという気持ちや伝わってきます。今月の巻頭では、詩歌に関心を持つ大学生が増えているという指摘がありました。文字数や表現方法を自律することと表現の深まりが深まる。ことばの力、磨かなくては! (伸)